

箕面市橋梁個別施設計画 【箕面市】

令和8年3月

箕面市 みどりまちづくり部 道路整備室

目 次

1. はじめに
 - 1) 背景
 - 2) 目的
2. 対象施設
3. 計画期間
4. 優先順位の考え方
5. 個別施設計画の状態
6. 対策内容と実施時期、費用
7. その他

1. はじめに

1) 背景

箕面市は、令和6年12月現在177橋の橋梁を管理している。多くの橋梁は、高度経済成長期（1950年代半ば～1970年代初等）に集中的に架設されており、今後老朽化に伴い維持管理費の増大や一時期への集中が予測される。

【橋梁架設 年代別】

	不明	1920年代	1930年代	1940年代	1950年代	1960年代
道路橋	54	2	1	0	3	26
横断歩道橋	4	0	0	0	0	0
	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代	計
道路橋	29	21	13	17	5	171
横断歩道橋	0	0	0	2	0	6

2) 目的

箕面市は、橋梁の中長期的な劣化状態を予測し、従来の事後対処療法的な維持管理から計画的な予防保全的な維持管理へと転換することで、維持管理コストの縮減や平準化を図る。

2. 対象施設

対象施設は、市が管理する道路橋梁（171橋）、横断歩道橋（6橋）とする。

3. 計画期間

令和2(2020)年度～令和12(2030)年度の10年間

（定期点検の1サイクル（5年）ごとに計画の見直しを行う）

4. 優先順位の考え方

限られた予算の中で、全ての道路橋及び横断歩道橋に対し、同時期に修繕することは不可能であるため、まず、各々の道路橋及び横断歩道橋が持つ重要度を設定し、それら重要度を参考に、対策優先順位付けを行い、長期的な視野で適切な長寿命化修繕計画を策定する。

優先順位を付けて順に対応を進めることで、維持管理費用の低減及び分散を行い、予算の平準化を図る。

要素	説明
重要橋梁	重要橋梁とは、①落橋することにより地域が孤立する可能性がある橋②大型車が通過する橋③交通量が5千台以上の橋、④地域緊急交通路路線、広域避難地や一時避難地へのアクセスを担っている橋⑤消防や緊急活動の重要な経路となっている橋を総合的に判断して「緊急時においても最低必要な橋梁」としているため、優先度が高くなる。
耐震性能	地震により大きな段差ができたり、落橋したりする場合、避難路の確保が困難になる。また、補強や架替え工事、長期間に渡り通行止め必要など大きな経済損失となるため、優先度が高くなる。
橋長	橋長の長い橋梁は、利用車に与える影響が大きいことから、優先度が高くなる。
幅員（6.5m以上）	幅員が6.5m以上の橋梁は車線数が多いので、利用者に与える影響が大きいことから、優先度が高くなる。
バス路線	通行止め等の交通規制が生じた場合、公共交通機関であるバス路線の迂回等が生じ、沿道住民等の生活に影響が及ぶため、優先度が高くなる。
通学路	小中学生の利用頻度が高いため、常に安全政を確保する必要があるため、優先度が高くなる。
架設年次	50年以上経過した橋梁は、老朽化の進行が早いため、優先度が高くなる。

基本的に点数化した上位から対策を行うが、ほぼ同じ点数の橋に関してはこの限りではなく、点数のみでは見えてこない点を詳細に検討し、対策順序を決定していく。

（例：同じ通学路であっても、通学児童数にかなりの差異がある 等）

また、より効果的な順位を決定付ける要素がある場合等、随時考え方の見直しを行っていく。

5. 個別施設計画の状態

	I	II	III	IV	対象外	計
道路橋	107	63	0	0	1	171
横断歩道橋	1	5	0	0	0	6

6. 対策内容と実施時期、費用

1) 対策内容と実施時期

※橋梁の諸元については別表1のとおり

優先順位	図面番号	橋梁名	健全度	跨道橋	緊急交通 緊要路	道路 等級	バス 路線	駅 他市 隣接	対策の内容・時期												
									R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)			
1	1	アートアベニュー橋	II	●	●	主要	●		設計		修繕										
2	66	船場西歩道橋	II	●	●	主要	●	●	耐震補強工事時に補修済												
3	56	向井橋	II	●	●	主要	●		設計		修繕										
4	67	中小前歩道橋	II	●	●	主要	●		設計		修繕										
5	64	三中前歩道橋	II	●		補助	●		設計		修繕										
6	65	西南小学校間歩道橋	II	●		補助	●		設計		修繕										
7	24	彩都大橋	II	●		主要	●		設計		修繕										
8	63	菅野区画道路3号線北歩道橋	II	●		生活		●	設計		修繕										
9	31	新馬場之所橋	II			主要	●		設計		修繕										
10	29	新大井出橋	II			主要	●		設計		修繕										
11	30	新千里川橋	II			主要	●		設計		修繕										
12	36	せせらぎ橋	II			補助	●		設計		修繕										
13	34	瀬川大橋	II			補助	●		耐震補強工事時に補修済												
14	46	西田橋	II			補助	●		設計		修繕										
15	21	河原橋	II			補助	●		耐震補強工事時に補修済												
16	22	仰箕橋	II			補助	●		設計												
17	3	あさぎり橋	II			補助			設計												
18	62	ゆうぎり橋	II			補助			設計												
19	44	にじいろ橋	II			補助			設計												
20	53	ホウズキ谷橋	II			補助			設計												
21	23	こもれび橋	II			補助			設計												
22	2	粟生外院1号橋	II			補助			R16(2034)年以降に実施予定												
23	26	三平橋	II			補助			R16(2034)年以降に実施予定												
24	8	今井橋	II					●	R16(2034)年以降に実施予定												
-	-	定期点検	-	-	-	-	-	-	点検	→		点検	→								

※本計画は今後10年間の計画を示していますが、5年毎に実施する定期点検に合わせ、計画の見直しを行います。

2) 費用

(単位：千円)

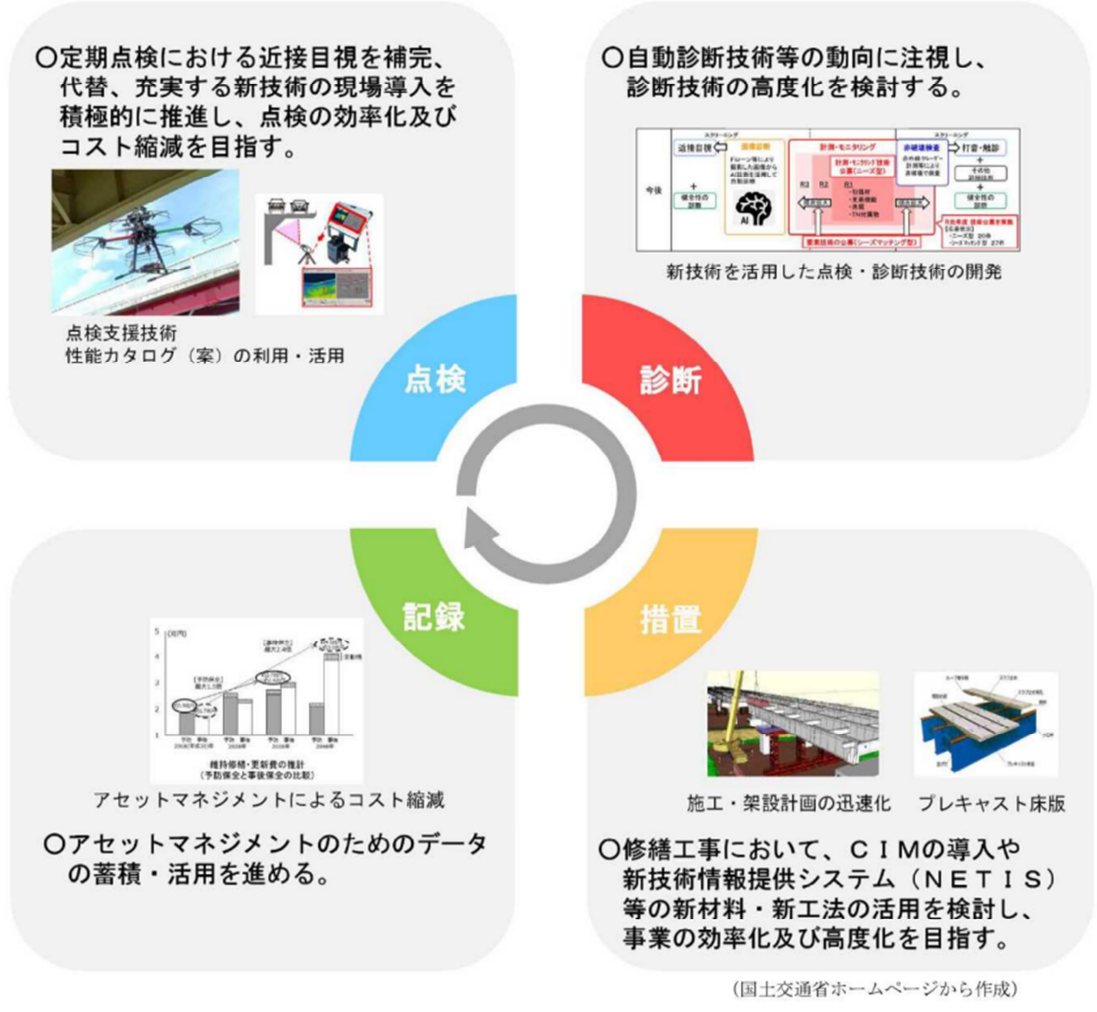
計画期間	R7	R8	R9	R10	R11
概算費用	10,158	44,112	23,000	48,011	47,090

7. その他

1) 新技術等の活用

道路橋の法定点検や修繕等の実施に当たっては、新技術情報提供システム(NETIS)や点検支援技術性能カタログ(案)などを参考に、新技術等の活用を検討し、事業の効率化やコスト削減を図る。

なお、R11年度までに橋長50mを超える7橋について新技術の活用を検討し、約1割程度の事業費削減を目標とする。



2) 橋梁の撤去・集約の検討

今後、維持管理費の負担増が想定されるため、点検結果や利用状況等を踏まえ、代替可能な老朽化した施設に対し、集約に伴う撤去を検討するとともに、通行を歩行者に限定するなどの機能縮小に関する検討を行い、事業の効率化やコスト縮減を図る。

なお、R11年度までに、架橋地の周辺状況や交通量及び代替路の有無等を確認のうえ、1橋を集約し事業費12,000千円の費用縮減を検討する。

3) 直営点検の採用検討

3サイクル目になれば、従前の点検結果に関して一定の傾向が見られてくる見込みであり、その結果を参考に直営での点検の実現も検討できると考える。

なお、R11年度までに、職員でも点検可能な「梯子点検する橋りょう106橋」のうち、過去の点検結果から、緊急性の無い健全な30橋に関して直営点検を試み、事業費10,000千円の費用縮減を検討する。